

編集後記

▼世の中、騒然としている。世間ではリクルート問題、宗門では修法問題、どちらも今回新たに起きた事件として見るべきではなくて、リクルートは政界の、行堂は修法界の暗部に根指しているものが表面化した問題として捉えるべきであろう。

「体曲れば影斜めなり」とは、大聖人のお言葉である。昨今、国と宗教でどちらが体で影だか不明瞭の様相を示しているが、どちらにしても、共通点が多いのはしかるべきであろうか。

中央教研では、行堂問題で異例の決議文が採択された。教研会議は、こうした政治問題に介入すべきでないとの声も聞かれたが、宗教と政治の相関を正面から論じられたのが、『立正安国論』であることさえ廃忘したのであるうか。

現実の暗雲を掃除しなくては、明日の展望は開けてはこない。▼沖浦先生の「アジアの聖と賤」は、日本の差別構造がヒンズー教の淨穢観念を基準としたカースト制、儒教の貴賤観念を基準とした律令制を起源とした、人為的社会構造である事を平易に解説されている。表層的差別の根底にあるものが、鮮明にされている点に着目していただきたい。

「海の民」「旃陀羅」の出自である日蓮聖人の宗教的視座に

立った差別問題研究は、今後の研究課題となろう。

▼「新宗教調査報告」は、直接取材してみなければ入手できない、生の情報を報告できたと思う。なかでも「宗教体験の実際と意義づけ」「既成仏教との相違点と魅力」は、本宗布教の実際に大いに参考としていただきたい。

新宗教教団を取材して感心するのは、その対応の丁寧な事、反省させられるのは、本宗に布教しようという意欲が本当にあるかどうかという点である。

統一教会では、他教団の分析をする専門のセクションが設置されている。渋谷にある会員を対象とした書店では、教団の出版書籍・テープ・ビデオ等が山のように積まれ、各国語の教義書が並べられ、信徒用の書籍を専門に販売している。

▼研究ノートの「原発問題と日蓮宗徒としての展望」には、従来の政治運動としての原発反対ではなく、人間の「いのち」の叫びとして原発反対を捉え、日蓮仏教との相関から、宗教実践としての原発反対を論じられている。

原発から放出される放射能は生態系を歪め、国土を穢す。此土有縁の我々は沈黙してはなるまい。

▼玉稿を頂戴した諸師に心より御礼申し上げます。(赤堀記)